呼吸器・感染症内科

診療科目：一般内科、呼吸器、腫瘍、アレルギー、膠原病、感染症、心身症

診療科担当研修責任者名：
菊地　利明（呼吸器・感染症内科診療科長）

診療科連絡先担当者名：
青木　信将（呼吸器・感染症内科エデュケーショナルマネージャー）

受入期間：1ヶ月以上（原則）

同時受け入れ可能数：6人

◇◇学会認定専門医数◇◇

内科学会専門医26人、呼吸器学会専門医19人、アレルギー学会専門医3人、感染症学会専門医7人、気管支鏡専門医7人、心身医学会専門医2人、がん治療認定医6人、がん薬物療法専門医2人

◇◇学会認定指導医数◇◇

内科指導医20人、呼吸器学会指導医9人、アレルギー学会指導医2人、感染症学会指導医4人、気管支鏡指導医2人、心身医学会指導医2人

診療科の概説・特徴

新潟大学の前身、新潟医科大学創設からの伝統を受け継ぐ内科学講座である。高度医療技術を用いて専門領域の診療を担当するとともに、内科全体を広い視野で把握しその上で専門性を発揮してゆくという機運に満ちている。臨床能力の優れた医師の育成はもちろん、臨床的疑問を研究者としての視点でもとらえ、基礎研究や臨床研究の手法で解決できるphysician scientistの育成も行っている。

診療科研修の特徴

当科での前期研修目標は、 1)病棟医として患者を診察し、病態を正確に把握すること、2)患者の状態を正確に上級医に伝え、鑑別診断を挙げ検査方法を決定し、可能なものは自分で実施すること、 3)診断確定後の治療方針を自分自身で決定し、上級医の指導の基で実施することである。 当科では 2つの診療チームがあり、いずれかのチームに所属することを原則としている。呼吸器、感染症の様々な疾患に対応できるよう約10名から成るチームでミーティングを頻繁に行い、意思疎通を図っている。

どこの科に進んでも必ず遭遇するcommon diseaseから内科専門医資格として経験が要求される間質性肺炎などの希少疾患や、感染性疾患、肺腫瘍、呼吸不全まで幅の広い診療にあたってもらう。専門分野の症例検討会に参加することで、特殊疾患の診かたやプレゼンテーション能力を養うことができる。 週1回の教授回診では当科入院の患者のみならず、他科との兼科（併診）の患者の回診を行う。

選択科目研修では、将来、呼吸器・感染症専門医を希望する場合は、より早期に専門医を取得するための準備期間になるであろう。また、他科を専攻することを決めている場合でも 画像の読みを学習するなど一定期間の内科研修を行う場としても有用である。